

## 【小学校の部 講評】

前田 比呂也 審査委員長 （沖縄県立博物館・美術館）

2022年の内閣府の発表によると、小学生の一日あたりのインターネット使用時間が平均3時間27分だという。子どもたちのまわりにはバーチャルの世界があふれていて、自然のなかでの体験にどのくらい興味をもつことができるのかなと考えたりする。でも、今回の審査を通して、あまり心配いらなないかと思った。子どもたちは、それぞれの方法で、身近な風景に動植物を想い、木々や草花を大切に育もうとしている。また、その周りに保護者や学校の先生をはじめとした大人たちのサポートがあるようだ。そんな活動が絵に表れていて、楽しくて希望に満ちた未来を感じさせる作品が多くみられた。

最優秀の宮古島市立西辺小学校6年、安里基治さんの作品は、生命や環境を主体的に育もうという態度が虹に象徴された作品で、構図の工夫が評価された。優秀の東村立有銘小学校5年、加堂まあるさん、名護市立屋部小学校4年、嘉陽愛巴さんの作品も、自然とかわる優しい気持ちがこめられた暖かい表現が評価された。

このコンクールを通して、都市部の子どもたちにも、緑化への関心が高まってくれることを願います。